

親が元気になることをめざして

子育て

ドキドキ
ワクワク
イキイキ



間違っただけはしっかり
叱る

しつけ・子どもの非行 その2

正しいしつけは子どもへの大切な贈り物

◆ すいぶん厳しく叱られたけど、今ではそれに感謝しています。

「自分さえ良ければいい」「ルールを守らない」という人は、なかなか人から信頼されないものです。子どもの間違っただけは本気で叱り、その場で正すことが本当の愛情です。

「自分の子だけ良ければいい」という考え方（自己主義）はやめ、叱るときには何がいけないのか、理由をきちんと伝えましょう。また、気分や感情に流されず一貫性をもって叱ることも大切です。

そして、親自身もルールに反することはしないように気をつけましょう。子どもに信頼され、尊敬される親であり続けるためにも。

◆ 感情にまかせて叱ることとしつけとは違う。

しつけは大切なことですが、「親である自分がしつけなくては」という気持ちから、つい子どもをたたいてしまい、その行為に歯止めがきかなくなってしまう場合もあります。子育てのイライラやストレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動にすり替わっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒントは、「叱られる側」の子どもの立場にもなって考えること。「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか」「子どもはどう受け止めるだろうか」、まずここから考えてみましょう。

子どもの心や身体を傷つけるような叱り方は、児童虐待につながることもあります。

● 子どもを虐待から守るための5か条

- ①「おかしい」と感じたら迷わず連絡 〈通告してください〉
- ②「しつけのつもり…」は言い訳 〈子どもの立場で判断〉
- ③ひとりで抱え込まない 〈あなたにできることから即実行〉
- ④親の立場より子どもの立場 〈子どもの命が最優先〉
- ⑤虐待はあなたの周りでも起こりうる 〈特別なことではない〉

◆ 言うことを聞かないのは、子どもの自立が始まった証拠

思春期や反抗期がくると、身体の成長に心の成長が追いつかず、ちょっとしたことで有頂天になったり深く傷ついたりするなど、成長という変化の中で心がもっとも不安定になります。ですから、子どもが言うことを聞かなくなっても、いたずらに動揺したり押さえつけたりする必要はありません。子どもの自立や親離れが始まった証拠です。むやみに干渉し過ぎず、子どもの力を信じてあたたかく見守ること、冷静に子どもの姿を見つめ、常に会話を重ねる努力をすることが大切です。

◆ 誰も一人だけでは生きられない。

私たちは皆、助けられ支え合って生きています。子どもは、このことになかなか気付くできません。そこで、地域の活動やボランティア活動などに親子で進んで参加してみましょう。子どもの成長に応じて、自分にできることを見つけ、行動していく機会を与えることは、「自分は社会の一員だ」という子どもの意識を高めることにつながります。また、いろいろな大人と一緒に活動することは、将来の進路や生き方を考えていく上でも、社会のルールを知っていく上でも貴重な機会となります。